

第 34 卷 PDF 読本



両毛線・水戸線（新前橋～友部）

わたらせ溪谷鐵道（間藤～桐生）

真岡鐵道（茂木～下館）

2024年10月28日 歩く鉄道作家 檜原 勉

<目次>

はじめに

第1章 両毛線（小山～新前橋）・・・5

第2章 水戸線（友部～小山）・・・16

第3章 わたらせ溪谷鐵道（間藤～桐生）・・・24

第4章 真岡鐵道（茂木～下館）・・・40

両毛線（小山～新前橋）：84.4 km

水戸線（間藤～桐生）：50.2 km

わたらせ溪谷鐵道（間藤～桐生）：44.1 km

真岡鐵道（茂木～下館）：41.9 km

総営業キロ 220.6 km

はじめに

本著書はデジタル形態のシリーズもので、「こだわり鉄道つたい歩き」よる PDF 読本旅日記の手記記録です。これまでの 5 巻（うち 2 巻は書籍）については、稚内から鹿児島までの日本縦断の旅について描いたもので、お陰様で執筆が完了しました。

引き続き、第 6 巻目からは、“日本横断歩き鉄の旅”について連載しています。第 29 弾目として、東北本線・常磐線・上越線に接続する、群馬県・栃木県・茨城県を走る、両毛線・水戸線・わたらせ渓谷鐵道・真岡鐵道の旅（総営業キロ 220.6 km）について執筆させて頂きました。

本作品はカッシー館にある檜原勉文庫拡充で閲覧可能です。また、国立国会図書館でご承認を得れば、通算 43 作目の著書として国立国会図書館でも閲覧できます。

(2002 年 2 月～2011 年 10 月で踏破)

こだわり鉄道つたい歩きとは、カッシー館でもご紹介している通り、九ヶ条から構成されます。

1. ウォークマンを聴きながら一人歩きを楽しむ
2. “鉄道案内人”に従って各駅を踏破する
3. メモや写真をとりながら筋書きのないドラマを楽しむ
4. 必殺仕事人の心境で歩く
5. 出発点は先憂後楽の考えに基づき決める
6. 歩く鉄道営業キロは季節を考慮して決める
7. 活動記録をとっている
8. 青春 18 きっぷを極力活用する
9. 東横インを極力活用する

<ご参考>

本著書に登場する駅舎は、“日本横断歩き鉄の旅“PDF 読本シリーズ中、カッシー館のブログに登場する「樫原勉文庫拡充」にて、次のPDF 読本からダイジェスト版でもご覧頂けます。

第16編（日本横断歩き鉄の旅）

第三セクター鉄道

天竜浜名湖鉄道（旧二俣線）・いすみ鉄道（旧本原線）・真岡鐵道（旧真岡線）
わたらせ渓谷鐵道（旧足尾線）・鹿島臨海鐵道（旧鹿島線）



天竜二俣駅

2021年5月5日 樫原 勉

第20編（日本横断歩き鉄の旅）

水戸線・両毛線



両毛線
国定駅

2021年7月21日 歩く鉄道作家 樫原 勉

第1章 両毛線

第1節 2月10日（日）：桐生～佐野 曇り／晴れ

桐生（10:10）～小俣（11:40）～山前（12:50）～足利（13:55）～あしがらフラワーパーク～富田（15:50）～佐野（17:05）

平成14年2月10日（日）を皮切りとして4回目目標で、未知の両毛線シリーズに挑戦することとした。両毛線の謂れは、上毛野と下毛野の両方の毛をとり命名されたとのことである。地形の関係から桐生を境に高崎側と小山側に区分して挑戦することにした。今日は、5時過ぎに起床して南林間6時21分の電車で新宿に向う。7時22分新宿発の埼京線で赤羽に行き、7時46分発の電車に乗り換え小山駅に向う。電車の中で乗車券（2,210円）を買う。5,000円札でおつりは500円玉2枚と100円玉を渡された。財布はパンパンとなった。8時50分に小山駅に着き、9時8分発の高崎行きに乗るため、両毛線のホームに行くと、聞き覚えのある懐かしい音楽が聞こえて来た。今日は朝から曇りで多少肌寒かったが、空っ風の群馬を走破するのにはもってこいの環境であった。間もなく4両編成の高崎行きが来る。驚いたことに、「車内の温度を下げない配慮から乗車・下車に際し手動式を採用しています。ご協力をお願いします。」旨のアナウンスがあった。両毛線は山裾を通っているところもあり、沿線の高い山は雪化粧をしていた。

桐生には10時10分頃着いた。山の裾野に桐生市があった。歴史を通じて桐生市を知ったが、ウエスタン風で道路も広い垢抜けした近代的な町並みにビックリした。町に出るや否や、有線放送を通して英語によるフォークソングが耳に入ってきた。やたらに **We have** が印象的に残っている。「桐生が群馬県の情報の入口である」ことを納得することができた。今日は第49回目の市民マラソンが実施されていた。サッカーマークの大きなガスタンクがJR線沿いあった。赤城山は雪化粧をしていた。県道67号線を歩く。



※桐生駅、桐生マラソン

本日は、桐生市、足利市それから佐野市で町の付く地名は通らなかった。桐生市と足利市の境には境橋（桐生川）があり、足利市と佐野市の間には白旗橋（旗川）があった。桐生川を越えてしばらく行くと道路から少し上がったところに小俣駅があった。この駅を写真撮影しようとした時、白い犬がじゃれついて来る。67号線とJR線の交差する手前に足利競馬場があった。足利駅で3枚の写真（駅、電車、看板）を撮る。日本最古の学校と言う看板が目についた。また、尊氏をはじめとする足利家の発祥地との看板もあった。



※小俣駅



※足利駅

白旗橋から雪化粧した奥日光の写真を撮る。足利市も町並みが桐生と同じくらい整備されていた。足利辺りで食事をしようと思ったが適当な食堂が見つからず、ローソンで弁当を買って近くのベンチに腰掛けて食べる。何とか名物の「佐野ラーメン」を食べようと思い先を急いだ。本日は左足も痛くなく順調に推移することができた。ウォーキングを始めて以来、桐生、小俣、山前、足利、富田、佐野と初めてすべての駅の写真を撮ることに成功した。足利から富田にかけて小さい山越えあり。5時5分に佐野駅（47,156歩）に着く。17時35分までの時間を活かし、佐野ラーメン（味吉）を食べる。麺がきし麺のようなラーメンだった。自宅には21時10分についた。本日の成果は、26.3Km、50,467歩だった。



※あしがらフラワーパーク駅



※富田駅、日本最古の足利学校



※佐野駅、佐野駅への路

桐生 (10時10分) ⇒小俣 (11時40分) ⇒山前 (12時50分)
⇒足利 (13時55分) ⇒富田 (15時50分) ⇒佐野 (17時5分)

第2節 3月9日（土）：佐野～小山 晴れ

佐野（9：40）～岩舟(12：00)～大平下(13：00)～栃木(14：35)～
思川（おもいがわ、16：20）～小山(17：55)

第2回目は、3月9日（土）となった。昨日は20数年ぶりの組合主催のボウリングで久しぶりの汗をかいた。スコアは80点と97点でメタメタであったが楽しいひと時を過ごさせてもらった。反省会もあり自宅についたのは、深夜の2時前であったが、本日5時過ぎに起きて前回の続きの挑戦を思いつく。できれば3月中にこのシリーズを終了させたいため、不調を押し切って挑戦することとした。1回目と同様、南林間を6時21分の電車に乗り、佐野駅には9時40分頃到着した。今日も小山駅の両毛線の構内では聞き覚えのある外国音楽が耳に入ってきた。今日は前回に比べ両毛線に沿った道路がないため、電車の窓から地形を観察する。電車の窓から遊園地の観覧車、思川それから岩舟山が印象的であった。



※岩舟駅、岩舟石（岩舟駅への路）

佐野駅のスタートは9時40分となった。駅前から暫く67号線を通らず商店街通りをつたい歩きをする。千手観音寺近郊で、途中東武佐野線が前方に現れ進路を誤りそうになり、地図を開き確認作業をする。念のため、女性の郵便配達員に「この線は東武線ですか」と尋ねたが、こちらが想定するような回答がこず、自分の考えを信じて直進する。大通りに出て100m位右に進んで複線を見、急遽JR両毛線である自信がなくなった。それに山の姿や太陽の方向からこの通りは進行から考えて変だと思った。それで引き返し確認のため年配の女性ドライバーに聞き、この線が両毛線であることを確認する。ただし、私が進もうとした方向は田沼方面であった。67号線に続く浅沼町の交差点で10時15分を指していた。改めて確認作業の大切さを思い知らされた。

67号線から1時間位歩き岩舟山が見えて来て、左に折れる道が分からず人の良さそうな年配の女性に聞くことにする。運良く左折すべき直前で聞くことができた。北に1,000m位行くと両毛線が見つかり踏切を渡りJR線の北側に出る。岩の軍艦のような格好した岩舟山が目の前にそびえていた。この山は現在も石を切り出しており、表面は崖が顕著に現れ荒々しく見えた。岩舟駅には12時に着く。駅前にここ数年休館と思える岩舟石の資料館(無料)があった。両毛線は主として単線であるが、佐野=岩舟間は複線となっていた。大平下には13時に着く。看板からの情報によると、この駅の近郊には次のような見物できるハイキングコースがあるらしい。大平下近郊では、雀や鳥それから野鳩が両毛線で春のひと時を楽しんでいる感じであった。

「雀達 両毛線で 鬼ごっこ」

太平山、太平神社、清水寺ボタン、十一面手観音、山田かかしの里いこいの広場、大中寺いこいの広場、大中寺アジサイ、郷土資料館戸長屋敷、観光ぶどう団地



※大平下駅、大平下駅への路(遠くに電車)



※栃木駅

永野川の大柳橋を渡ると栃木市であった。14時過ぎ駅前の「一松飯店」で野菜そばを食べる。昼食を済ませ栃木駅には14時35分に到着する。それから栃木小山線道路を通り小山駅に向う。この道は歩道がないところがあり、また、最後の思川駅クリアのためこの道路から左に1,000m位東方向に行く。小山西高校の横を通り両毛線に近づく。この線に沿って1Km位つたい歩きをして思川駅を見つける。16時20分であった。



※思川駅

この駅と小山駅の間には、1級河川「思川」が横たわっていて、無駄な歩きがないよう細心の注意を払った。300m位の島田橋を渡り宇都宮線走破の時に通った国道4号線に出くわす。17時15分であった。この交差点の信号機には小山高校前とあった。4号線を通り抜け小山駅に向う。小山駅到着は17時55分だった。18時頃の快速で家路に向う。十条で人身事故があり赤羽近郊で20分～30分足止めとなる。自宅には21時頃到着する。本日の営業距離は26.6Km、万歩計は53,457歩だった。

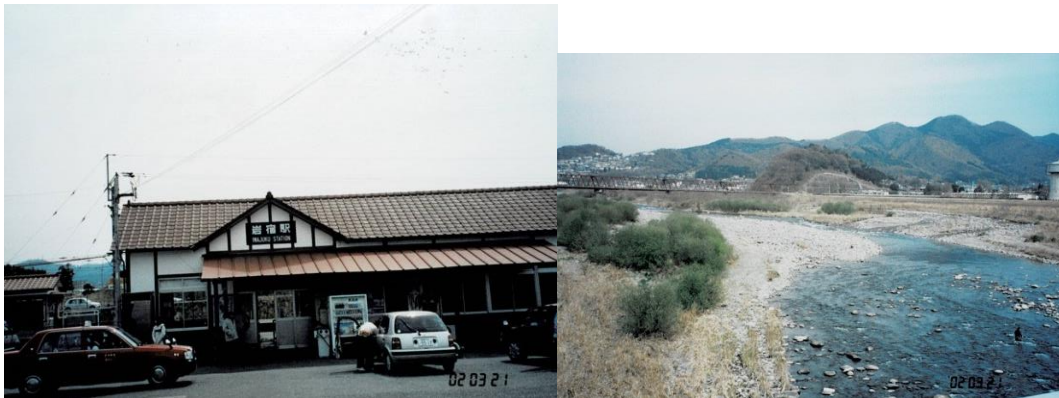


※小山駅

第3節 3月21日(木)：桐生～駒形 晴れ

桐生(10:10)～岩宿(11:25)～国定(13:00)～伊勢崎(15:00)～駒形(17:30)

第3回目は3月21日(木)、母の73回目の誕生日であるお彼岸の中日に、桐生から駒形までの22.0Km行程への挑戦となった。今日も南林間を6時21分発で現地に向った。今日は桐生から小山までの挑戦と異なり、宇都宮線ではなく、高崎線を利用して、高崎まで行き、高碓(9時28分発)から両毛線に乗り換え桐生に向うコースを選んだ。今日も赤羽駅で、宇都宮線と同様高碓線に乗り換えた。7時43分の連絡であった。桐生には10時10分に到着した。今日も電車の窓から風景を楽しむ他、今日歩く沿線に加え今後のウォーキングする箇所も視野に入れ地形等を観察した。高碓線の倉賀野駅は八高線を走破した時歩いたので懐かしく思えた。電車の窓から見た限り、今日走破予定の所は、鉄道に沿った道路はない感じであった。桐生駅の手前には大きな橋(桐生大橋)があり、この橋の渡り方に神経を使いそうであった。鉄道を挟んで南と北側に橋が目についた。



※岩宿駅、岩宿駅への路

駅のベンチで今日の戦略を考えてからのウォーキングとなった。結論的には南側から挑戦することとした。桐生からの挑戦は、鉄道の北側は山間で地形が複雑と判断しこの選択となった。今日は鉄道に沿った道がないため、5回遭遇した人に聞くこととなった。先ず1回目は、68号線にある桐生大橋への道である。桐生市立商業高校先の美原町交差点を右折して大通りに出る。桐生大橋を渡って暫く行くと桐生競艇があった。2回目は、東武線が途中にあり、JR線でない確認のためにドライバーに聞く。暫く行くと、運良く岩宿の看板が目に入ったので、道なりに沿って岩宿に向う。岩宿には11時25分の到着となった。笠懸(かさがけ)町総合運動場の桜の前で記念写真を撮る。



※国定駅 (カッシー館トップページぬ登場)、国定駅界限

今日も JR 線に沿った道がないため鋸型進路で国定に向うことを余儀なくされる。途中、公道が行き止まりとなり、キャベツ畑、蓮華畑の間にある農道を通り引き返すことなく前進する。国定橋、東村立北小学校の横を通り、国定駅には 13 時 (22,306 歩) に到着する。国定忠治で有名なこの駅は、今では無人駅であった。書上踏切、粕川 (かすかわ) を通り伊勢崎に入る。この駅も東武線があり、高架で道路を跨いでいた。伊勢崎市に入ると墓がやたらに目に入ってきた。今日はお彼岸にもかかわらず、お墓の上の桜は満開であった。先祖の墓参りをする人の姿が目に入って来た。幹線道路を通らなかったため、昼食は 15 時頃、伊勢崎駅前の「食事処弥生」で生姜焼き定食を食べる。この店で一句思いつく。

「伊勢崎で 桜満開 弥生かな」 「お彼岸に 桜咲くとは 珍しい」



※伊勢崎駅、かかあ天下

この弥生を出る時、第 3 回目の質問をして道の確認を図る。伊勢崎駅は、東武伊勢崎線の終着駅だけあり、駅建物は立派であった。伊勢崎には三越があった。そこから上州かかあ天下で有名な「かかあ像」も目と鼻の先にあった。かかあ天下は働き者の母の呼称らしい。2 号線、104 号線を通り駒形駅に向う。途中、広瀬川、宮子神社、駒形神社があり。高速道路を通過したところで、犬を散歩しているお嬢さんに第 4 回目の質問を

して、駒形駅の位置を確認する。運良くこの遊歩道沿いに行けば駒形駅に行くとのことであった。遊歩道を 500m 位行き、駒形駅の案内看板を見つける。ところが、この方向とは逆の方向を示す看板があり、どちらが正しいのか分からなくなり、念のため 5 回目の質問を 3 人連れの女学生にする。結論的には、最初の看板の案内が正しかった。駒形駅には 17 時 30 分頃着く。駒形 17 時 53 分の電車で家路に向う。自宅には、21 時 50 分に着いた。今日の万歩計は 50,293 歩だった。



※駒形駅、駒形駅への路

第4節 3月30日(土) 駒形～新前橋 晴れ

駒形(9:55)～前橋大島～前橋～新前橋

ウォーキングができるどうか心配したが、予報ではお天気とのことで両毛線を本日仕上げることにした。平成 14 年 3 月 30 日(土)、南林間 6 時 29 分で駒形に向った。駒形には 10 時前に着く。駅を降りるや否や強風で帽子が飛ばされそうになった。また、桜吹雪も凄かった。



※前橋大島駅

今日のコースは、鉄道に沿って主要道路があり道に迷うことなくスイスイと進むことができた。しかしながら帽子を飛ばされない注意が終始要求された。ここ数日冷え込んでいるので両毛線から見える山は雪化粧をしていた。両毛線で続いた記録が前橋大島で閉ざされた。それは、各駅記念写真を撮ることであった。この記録を逸し非常に残念な気持ちで一杯であった。広瀬川が前回の時の他に2回出現する。前橋駅の近くの文京町で強風のため帽子飛ばされる。今日は、桜と松、菜の花、梨の花それから八重桜の花を写真撮影する。前橋駅を過ぎ、利根川を渡って少し行った「結城屋」という蕎麦屋でおろしそばを食べる。13時40分頃高碓駅ひとつ手前の井野駅を写真撮影。結局、両毛線各駅のうち前橋大島と新前橋の2駅だけ写真撮影できず。高碓駅には2時50分に到着する。3時前の電車で自宅に向う。本来なら引き続き倉賀野駅から高碓線に挑みたいところだが、巨人＝阪神開幕戦をテレビ観戦するため打ち上げることにした。今日の試合結果は、檜山とアリアスの一発により1－3で敗れる。営業距離は16.8Km、万歩計は36,402歩だった。開幕戦で両毛線91.7Kmの走破に花を添えることができなかったのは残念であったが、充実した一日であった。



※前橋駅、前橋駅への路



※新前橋駅

両毛線を走破して感じた一つは、栃木、佐野、足利、桐生、伊勢崎、前橋と言った市はすべて住みやすそうな町である。また、両毛線は足利競馬、桐生競艇、伊勢崎オートとギャンブル沿線の顔を持っている。更には、厳しい季節にもかかわらず、温暖と天気に恵まれ歩き易かった。おまけに彼岸の中日に桜満開を楽しむこともできた。今日のウォーキングを通じて、高碕を始点とする大きな楕円を完成することができた。

高碕⇒高麗川⇒八王子⇒横浜⇒東京⇒大宮⇒小山⇒桐生⇒高碕